

e-ビーフNEWS 北の牧場から

June 2025

十勝は、はやばや初夏

朝が早い、3時過ぎには明るくなる。朝が10度前後と肌寒いのに、日が昇ると30℃近くまで行く。寒暖差が大きく、体がついてゆかない。色とりどりの花々から覆われた周辺が、一転して淡い新緑に変化した。畑の牧草や小麦もフサフサになり、道路の雑草が穂を出し始め道路管理者が異常な早さで草刈りを始めている。

牧場の1.5毛作狙いデントコーンは、5/8に播種を行い、2回カルチが入った。順調は発芽で線状の点線畝がはっきり見える。本番播種は5/21からにおこなったが、霜を心配するほどの低温でまだ芽が出てこない。牧場のメインディッシュ頑張っ出てきてくれ

連休明けに早々隣の町営牧場に出した短角、アンガス、3元交配交雑種の育成牛は、モクモクと早春の一番おいしい栄養ある草を食べている。見に行っても何しに來たのにとられる。ちょっとスリムになったが元気いっぱいだ。先日脱柵。倒木でバラ線壊れたところから逃げたらしい。10月下牧までにどこまで成長するか楽しみだ。



活動のお知らせ

- 5/17(土)18(日) 日本産肉研研究大会 研究大会岩手 牛の博物館(奥州市前沢)
基調講演 肉牛ジャーナル編集長 73名参加 前沢牛生産者10名参加
6/5(木) 帯広文化センター「COWS」上映会 畜試へ移動 飼養技術研修会
6/6(金) 環リ協第22回総会 新得 畜産試験場研修センター

NEWSばか読み

- 農水省 備蓄米の流通滞滞調査5/1: コメの流通構造に課題
- 2025年度食品値上げ1万4千品 前年上回る勢い5/1: 財布が厳しく
- 3月農産物輸出好調2割増 東南アジアで牛肉急拡大
5/2: 関税影響はこれから
- 農水省 家畜排せつ物基本方針改定 良質堆肥へ施設整備方針
5/2: 良質とは
- 農水省 牛ゲップ抑制にカシューナッツ殻液を飼料添加物に指定5/3:
- 総務省 子ども人口が1366万人11%44年連続減少
5/5: 子どもが貴重
- 政府 基本計画に化学農薬だけに依存しない総合防除を推進
5/6: より思考
- 政府 ふるさと住民の登録方法を検討5/7: 移住以外に分散
- 環境大善(北見) 牛舎用消臭剤を発売5/7: バイオ活性水
- 青森県 大雪雪害206億円過去最大5/9: リンゴが食えなくなる
- 24年度青果卸 取扱高過去最高2.3兆円 取扱高700万tは連続減
5/10: 流通変化
- 24年農地価格30年連続下げ ピーク時の半値5/13: 農業参入の好機
- 公取委調査 食品ロスで1/3ルール of 商慣習5/13: ルールの見直しから
- 財務省 24年度国際収支26兆円の黒字 貿易収支は4兆円の赤字
5/13: 本有の力は
- イオン アメリカ産米の販売本格化 民間輸入で5/14: 始まった
- 24年度 相続土地国庫帰属制度で19ha過去最多5/15: 最終国帰属
- コメ卸商 営業利益大幅増5/15: やはり
- 農水省 JAS有機酒・畜産 EUと同等性確保
5/16: 大きなオーガニック市場
- 農水省 飲用乳コスト構造調査で飼料費が半分5/16: 構造的
- 政府備蓄米放出で民間在庫適正量200万tを越す5/17: 溜まっている
- 貿易統計2024年度冷凍野菜輸入量 120万t過去最多
5/19: 輸入リスク高まる
- 農水省 2024年畜産苦情状況 悪臭が半数5/20:
- ブラジル 鶏肉世界最大の輸出国 鳥インフル発生で輸入停止相次ぐ
5/21:
- 農林中金 2024年度赤字1.8兆円5/23: 農業資産構造的課題か
- 農水省 牛肉輸出台湾向け30ヶ月齢撤廃5/24: やっと
- 文科相 26年学給無償化 食の理解が有効 地場産農産品の活用調査
5/24:
- 国交省 空地の実態把握強化 農地も5/26: 放棄地の活用になるか
- アメリカ トランプ発言から小売り各社高関税転嫁できず
5/27: 脅し政治
- 農林大臣 備蓄米放出転換 随意契約で半値流通模索5/27: なに狙い
- 財政審 飼料米助成見直しを提起5/28: 中長期展望から論議必要

東京直近NEWS(5/29 Shi-REPORT)

ホルス

市況相場は持ち合い状況だが、産地相対相場は国産牛の低価格クラス
の引合いが強く相場上昇を続けている。

頭数の減頭が著しく、ホルスの取り合い模様で生産者も強気な状況。
各販売メーカーも頭数不足から決して販売が好調ではないが不足感強
く産地への出荷要請強く買値もプレミアム価で上昇中。
販売面では赤身中心に不足感強く切落しも引合い強い。
冷凍パーツも赤身中心に不足しておりロースが一部鈍いか。
出荷頭数減少から、産地工場も減頭せざる得なく他品種で頭数確保し加
工場稼働補うもいつまで続くか。
喫緊では頭数確保が最大の課題と思われる。

経産牛

北海道内の出回り頭数の減少基調は継続課題。
北海道以外の地域の減少も深刻で、道内市場への買参人は日々増加中。
生体輸送費コスト上昇でも、集荷課題クリアの意図から購買欲は強気変
わらず。販売面もパーツ不足感強く、赤身モモ、バラ系ロインも余剰無し。
加工原料として冷凍含めたパーツ供給量少なく、先々の原料確保に不安
感強まっている。
挽材はパーツよりも深刻な不足状況。スネネック安価パーツ打診も全く
余剰なく、挽き材以下の価格でのパーツは皆無。
産地在庫も逼迫しており、各メーカー在庫余剰は無い模様。
現状は輸入品の割安感もなく、量販店は定量維持しての販売に留めるま
でも販促打てる牛肉アイテム無く、結果挽き材の販売が伸びている。

1. 日畜会報96巻1号(2025.2)

(1)(原著)黒毛和種とオーストラリア産Wagyuの胸最長筋における物理化学特性および官能特性の比較(尾花尚明他、家改セ福島・鳥取)

日本の農林水産物で国際競争力のあるものの一つである黒毛和牛肉は豪州、米国、英国などでWagyuとして生産されています。夫々18頭の黒毛和種と豪州産Wagyu両者の胸最長筋と筋間脂肪の物理化学特性と官能特性を比較しました。黒毛はWagyuより筋肉内脂肪が高く、オレイン酸など一価不飽和脂肪酸(MUFA)指数が著しく高くこの脂肪質がやわらかさ、多汁性、甘い香りなどの官能特性の要因とされています。今後和牛肉を海外に輸出拡大を図るには霜降り肉の原点とされる脂肪交雑以外に対象国の食文化に即した脂肪質の遺伝的改良も必要と思われます。

(2)(資料)和牛はなぜ世界に冠たる肉用牛になれたのか(広岡博之、京大)ー2024年日畜京都大会のシンポジウム「日本の畜産研究は、世界に冠たる和牛生産をいかに実現したのか」の解題

ーシンポジウムでは育種(祝前)、繁殖(武田)、飼養(岡)、食肉(入江)の4部門の研究者各位の話題提供から、1. 黒毛和種の品種特性その遺伝能力評価の軌跡やゲノミック評価の活用、2. 和牛の改良を支えた最先端繁殖技術の今後の展開、3. ビタミンAコントロール技術による霜降り牛肉生産の展望、4. 和牛肉のおいしさに関する官能評価と理化学的特性にミートサイエンス的解説と将来展望が示されました。それぞれの領域で果たしてきた成果と役割、今後の研究展望等についての見解が示されました。

2. 畜産技術839号(2025.4)

(国内情報3)褐毛和種の改良についてー独立行政法人家畜改良センター熊本牧場の取り組み(奥地弘明、家改セ熊本)

家畜改良センターは家畜の改良増殖を推進する福島の本所と優良な種畜生産・供給する全国11の牧場があり、熊本牧場では褐毛和種の改良業務を担っています。褐毛和種は朝鮮半島由来の在来種にシンメンタールを交配して改良した和牛です。環境変化に強く、体質強健、放牧適性が高いとされ阿蘇の草原で放牧する文化は文化庁の重要景観に選定されています。肉質は赤身肉で脂肪交雑重視の価値観とは異なります。遺伝的改良はゲノミック評価が実用化されていますが、頭数が2.3万頭と母集団が小さく黒毛和種牛の186万頭と比べて近交係数の上昇し易い傾向があります。

3. 畜産技術840号(2025.5)

(国内情報1)和牛の肉質ーおいしさをめぐる課題と展開方向(入江正和、家改セ本所)

和牛肉のおいしさはやわらかく、ジューシーで風味がよいと人の脳で感じることであり、人種や個人によってもその評価は多様です。和牛肉の食味性の改良に今後も脂肪交雑の多寡での評価は疑問です。脂肪交雑重視でBMSの上昇で筋肉内脂肪が50%を超えると赤身肉の呈味成分が減少し、和牛肉のテクスチャーの一つである舌触りの良さが筋肉内脂肪の一価の不飽和脂肪酸の減少などで失われるなど、脂肪と赤身のバランスが重要です。

資源循環型肉牛生産シンポジウム 2024

転載・再利用は固くお断りします

基調講演「堆肥の機能性成分と作物生産への活用」5回シリーズ⑤

帯広畜産大学教授 谷 昌幸 氏

